

平成 30 年 8 月

日本医学会分科会長 殿
大学医学部長 殿
医科大学長 殿
大学附属研究所長(医系) 殿
都道府県医師会長 殿
国公立博物館長 殿
関係機関長 殿

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会
理事長 釘 宮 豊 城

平成 30 年度「医科器械史研究賞」受賞候補者の推薦依頼について

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会は、歴史的に重要な意義をもつ医科器械を収集し、これを医科器械の開発・改良の研究に資するための資料として保存し、医科器械に関連する科学および技術の進歩に貢献することを目的として、日本医科器械学会〈現：一般社団法人 日本医療機器学会〉（日本医学会第 34 分科会）が昭和 59 年（1984）に設立した財団であります。

同財団は、平成 4 年から、本協会の目的を達成するための事業の一つとして、医科器械史の研究に優れた業績をあげた研究者に「医科器械史研究賞」を贈呈しています。つきましては別紙要項により平成 30 年度の候補者を募集いたしますので、貴機関から候補者 1 名をご推薦いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究賞は、貴機関（等）から推薦された候補者のほか、自ら申請した候補者も選考の対象といたしますので、本研究賞について貴機関構成員各位に周知していただきたく、併せてお願い申し上げます。

平成 30 年度 (第 27 回)

「医科器械史研究賞」および「青木賞」受賞候補者の募集要項

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会

1. 本賞の意義

本協会は歴史的意義を有する医科器械を収集し、これを医科器械の開発・改良の研究資料として保存し、医科器械に関する科学技術の進捗に貢献することを目的として、日本医科器械学会〈現：一般社団法人 日本医療機器学会〉が昭和 59 年に設立した財団であります。「医科器械史研究賞」は医科器械史の研究を奨励するために、平成 4 年から本協会の事業の一つとして、優れた研究者に贈呈してきました。また本協会の設立に大いに寄与された青木利三郎氏を記念して設けられた「青木賞」が、平成 9 年から優れた研究者に奨励賞として贈られています。

2. 応募資格

すでに顕著な業績をおさめた医科器械（ただし、理化学器械、薬科器械、歯科器械に関する研究は除く）に関する研究者で別記の推薦者（団体）から推薦された者、および自薦者。

3. 「医科器械史研究賞」

本賞は賞状とし、副賞として賞金を贈呈します。なお、賞金の総額は 100 万円が計上されています。「医科器械史研究賞」選考委員会が推薦した候補者の中から受賞者を本協会理事会で決定し、賞金額を決定します。

4. 「青木賞」

上記の応募者の中から将来が期待される研究と認められた研究者に対して、奨励賞として賞状と副賞が贈られます。

5. 募集方法

規定の用紙に推薦対象となる受賞候補者の研究題目、推薦（申請）理由、略歴などを記入し、主な論文（10 編以内）を添えて、協会事務局に送付してください。

6. 推 薦

推薦団体は医学会分科会、大学医学部、医系大学ならびに医系付属施設、日本医師会、都道府県医師会、国立私立博物館、指定の関係機関および所属機関の長とします。なお、自薦による応募もできます。

7. 推薦又は申請の方法

1) 推薦書又は申請書

本協会の所定の推薦 / 申請用紙を使用して、必要事項を黒色インク又はパソコンを用いて記入し、本協会事務所に送付していただきます。

2) 参考資料添付（必須）

候補者の研究実績を示す参考資料として、その研究についての候補者の自著の論文又は著述の別刷又はコピーを添付していただきます。参考資料の添付のない推薦又は申請は受理いたしません。

8. 推薦又は申請の締切日

平成30年10月31日(水)午後5時（必着）といたします。

9. 選考の方法及び受賞者の決定通知

本協会に設置する「医科器械史研究賞」候補者選考委員会の審査に基づいて、推薦又は申請の採否及び採択された候補者に対する研究賞の交付金額を本協会理事会が決定し、平成31年1月下旬（予定）までに推薦者又は申請者に文書で通知いたします。

10. 受賞者の方へ

- 1) 研究賞は、第94回一般社団法人日本医療機器学会大会で受賞者に贈呈いたします。
- 2) 受賞した業績の内容を一般社団法人日本医療機器学会の機関誌「医療機器学」に掲載するため、同誌の「原著」の投稿規定に従って作成した原稿を所定の期日までに提出していただきます。贈呈の日時等は追って通知いたします。
- 3) 受賞した業績について、平成31年4月1日から平成32年3月31日までの1年間に行った研究の実施状況の報告を、平成32年5月31日までに提出していただきます。この報告には研究賞の会計処理の状況を含み、前記の期間中の研究賞金の支出についての納品書、請求書及び領収書等を添付していただきます。

11. 推薦書／申請書送付先及び連絡先

推薦書類又は申請書類の送付先及び連絡先は下記にお願いいたします。

一般財団法人 日本医科器械資料保存協会

「医科器械史研究賞」係 あて

〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目39番15号 医科器械会館4階

一般社団法人 日本医療機器学会内

☎ (03) 3813-1062

推薦書又は申請書の用紙が必要な場合は、82円切手を同封して前記宛先に請求してください。

「医科器械史研究賞・青木賞」受賞者一覧

敬称省略・所属先は受賞時のものです

		研究課題	所属先等	受賞者氏名
第1回	平成4年度	日本における臨床検査機器の発達変遷史	金沢医科大学 臨床病理	寺畑 喜朔
		内視鏡の歴史－胃内視鏡を中心に	関東通信病院 消化器内科	多賀須 幸男
		消化管内視鏡の歴史	防衛医大 第2内科	丹羽 寛文
		消化管縫合器並びに吻合器の研究	平塚市民病院 外科	中山 隆市
第2回	平成5年度	人工心肺の歴史	藤倉病院	藤倉 一郎
		スコーマ機器の歴史に関する研究	東京慈恵会医科大学 第1外科	穴沢 貞夫・他
第3回	平成6年度	該当なし		
第4回	平成7年度	耳鼻咽喉科診療器械史の研究	飯田耳鼻咽喉科医院	飯田 収
第5回	平成8年度	該当なし		
第6回	平成9年度	目で見える眼科医療器械史のCDROM化	奥沢眼科医院	奥沢 廉正
		(青木賞)眼科史における古資料の意義とその保存	永吉の眼科院	千葉 弥幸
第7回	平成10年度	実体験に基づく心臓並びに脳神経活動の 光学的計測機器開発史の研究	東京医科歯科大学 生理学	神野 耕太郎
第8回	平成11年度	人工腎臓(血液透析)の歴史の研究	原 学園	白井 洸
第9回	平成12年度	眼科における古資料の保存と活用のための史料館建設	民蘇堂野中眼科	野中 杏一郎
第10回	平成13年度	該当なし		
第11回	平成14年度	赤外線電子瞳孔計の開発	北里研究所病院	石川 哲
第12回	平成15年度	関節鏡視下手術用機器及びその使用手技の開発	I.K 関節鏡研究所	池内 宏
第13回	平成16年度	黄斑部局所網膜電図の開発とその後の発展	名古屋大学 医学部眼科教授	三宅 養三
第14回	平成17年度	該当なし		
第15回	平成18年度	旧陸軍軍医学校所蔵史料による医療史の再検証	陸上自衛隊衛生学校	木村 益男
第16回	平成19年度	電気手術器(電気メス)	(株)セムコ	青木 紀二
第17回	平成20年度	佐久間象山型電気治療機の解明	弘前大学教育学部教授	東 徹
		(青木賞)トレミキシンR開発史 ーポリミキシンB敗血症性治療器開発と応用の歴史	滋賀医科大学 外科学講座教授	谷 徹
第18回	平成21年度	明治初頭日本における医療技術の移入と医療技術評価 医療器具:「焼灼電気器」「イクラセウル」を中心に	順天堂大学医学部 医史学研究室 准教授	月澤 美代子
第19回	平成22年度	該当なし		
第20回	平成23年度	該当なし		
第21回	平成24年度	国産第1号膀胱鏡に関する検証とその後の発展の史実	東京医科大学名誉教授	三木 誠
		(青木賞)眼科手術を支える器械・機材の発展経過、開発経過について	園田病院副院長	園田 真也
第22回	平成25年度	鮎田式胃壁固定具の開発 ー胃瘻の歴史から見た鮎田式胃壁固定具の意義ー	ふなだ外科内科クリニック 院長	鮎田 昌貴
第23回	平成26年度	十二指腸鏡と治療内視鏡機器の開発並びにその世界展開	昭和大学名誉教授	藤田 力也
第24回	平成27年度	マイクロ波手術器の研究	NPO法人マイクロウェーブ サージャリ研究会理事長	田伏 克惇
		(青木賞)IKARIカテーテルの開発	東海大学循環器内科教授	伊苅 裕二
第25回	平成28年度	画像強調内視鏡システムの開発・臨床応用と国際的普及活動	東京慈恵会医科大学先進 内視鏡治療研究講座教授	田尻 久雄
		(青木賞)銅人形の現存調査および史的研究	森ノ宮医療大学大学院 教授	長野 仁
第26回	平成29年度	わが国の病院船史における八幡丸の存在意義	自衛隊呉病院	柳川 鍊平